

図書室の魅力を伝え 子どもたちの心をはぐくむ

「子どもたちが図書室に来たくなるような仕掛けを作って、もっと本の魅力を知ってもらいたい」と笑みを見せるのは、町司書の中島理恵さん。

5月下旬、本町の司書に就任。町内の小・中学校と町生涯学習センター図書室を週1回ずつ回り、読み聞かせや蔵書管理などそれぞれの学校の教育方針や子どもたちのカラーに合った図書室づくりを目指している。

中島さんは、「図書室は、子どもたちが今何に興味があるのか、どんな授業が行われているかによって特集やレイアウトなどを変化させています。私が読んで欲しいと思っ

ている本を手にとってくれたときは、とてもうれしいです」と司書のやりがいを笑顔で語る。

「私の趣味は本。今も本屋さんに行くのは日課になっています」と話す中島さん。小



中島 理恵さん
Nakashima Rie

〔町学校教育課〕

なかしま りえ / 図書館司書。
町内の小・中学校で蔵書管理や読み聞かせを行う。子どもたちが来たくするような魅力ある図書室づくりを目指す。

学生のとときには図書委員も率先して務めるほど本が大好きな少女で、いつも図書室で本を読んでいた。その後、司書を目指して資格取得できる短大へ進学。「本に関わる仕事をするのが夢だったので、本に囲まれて図書室の魅力を伝える仕事ができることが楽しくてしょうがない」と目を輝かせる。「これからは、季節に合わせた行事やイベントも考えています。本に興味がない子でも図書室をのぞいてみたくなるような仕掛けを考えて、本に触れ合う時間を作ってあげたいです」と意欲を見せる。

広報 こうさ

2016年（平成28年）8月号
通巻565号